

## 福昌寺跡

【所在地】鹿児島市池之上町 48

【種別】県指定史跡

【指定年月日】昭和 28 年 9 月 7 日



玉龍山福昌寺は、応永元（1394）年，島津元久によって創建された島津家の菩提寺。宗派は曹洞宗で，開山は石屋真梁である。最盛期には 1,500 名もの僧がいたといわれ，南九州最大の寺院であった。また，薩摩・大隅・日向三ヶ国の僧録所として，南九州の禅宗寺院を管轄し，その人事を司った。その末寺は南九州のみならず，北部九州・中国・四国・北陸地方におよび，その数は 2,000 寺とも 3,000 寺ともいわれている。現在，国宝五重塔で著名な山口市の瑠璃光寺，大分県耶馬溪の羅漢寺も福昌寺の末寺であった。

天文 15（1546）年，忍室和尚の時，後奈良天皇の勅願寺となり，同 18 年，フランシスコ・ザビエルがしばしば当寺を訪ね，忍室と宗教問答をおこなった。江戸時代には寺領 1,361 石（「要用集」）と藩内随一の石高を誇っていたが，明治 2（1869）年，明治政府の神道国教化政策に基づいて広まった仏教の排斥・破壊運動（廃仏毀釈）により廃寺となった。

現在，寺の境内は鹿児島市立玉竜高校となり，その背後に 6 代氏久から 28 代斉彬までの歴代当主とその家族の墓，歴代住職の墓等がのこされている。またその山手には，廃寺後，ここに収容され病死した長崎のキリスト教信者たちを葬ったキリシタン墓がある。